和歌山青棋会報

1987年12月号　NO.1
発行　〒640 和歌山市下町31
榎本聖二
(0734) 31-3859

第百回大会結果

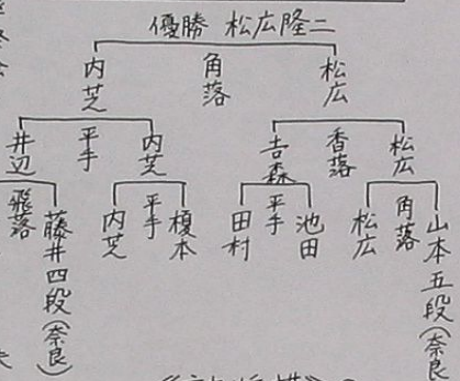
和歌山青棋会も結成以来8年の才月を数え、ついに第100回記念大会を無事終了することができました。11月1日には会場の田村道場が狭く感じる程の会員20名、一般7名の計27名もの人が集まり、なごやかに対局がすすみました。

参加者をレーティング点数順に列記しますと、田村禎章(2204)三笠史雄(2182)伊達隆行(2127)吉森秀和(2081)松広隆二(1973)真田正(1956)池田光雄(1931)榎本聖二(1848)川口一夫(1848)竹本清和(1776)内芝正和(1761)佐々本信雄(1696)井辺正規(1707)仲永二(1380)鈴木勝治(1361)三根芳夫(1213)山中孝雄(1128)高木幹男(1142)中貝友次郎(1054)瀬藤広幸(1010)となります。

又、たまたま奈良の強豪の方々が浜田静男四段の人柄に接するのを楽しみに和歌浦の小浜荘に宿泊されていた事もあって、ついでに私達の会にも出席下さり大会を盛り上げて下さいました。奈良の皆様どうも有難うございました。

ここでごくうちわの話を致しますが、今この原稿を書いている私(伊達)個人はこの第100回を潮時にこの会を解散してしまっても良いのではないかと考えておりました。理由は、例会の参加人数が平均すると非常に少ない(最近では10人集まれば多いぐらい)、役員をしてくれる人がない、本会を登竜門的な場として何人かの有望な方々が巣立ち終わった、本業多忙、等々…の事情による。ところが、本会の財産(主にチェスクロック)をどう処分したらよいかなどの頭を悩ませる後始末もあるし、まあ細々とは言っても一応会員数も40人余りの方々がまだ残っておられることだし、…というわけで、あとしばらくは頑張ってみようと決意した次第です。どうぞ皆さんよろしくお願い致します。そして、本会の会長職を引き継いでやってもいいよと言って下さる方がいらっしゃいましたら是非御一報下さい。

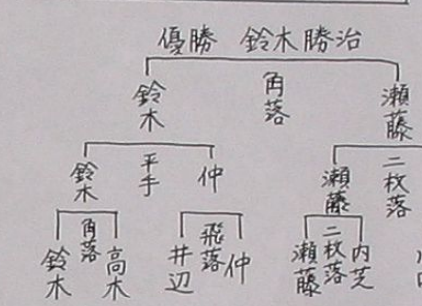
1800点以上の部の優勝カップ戦 ベスト8



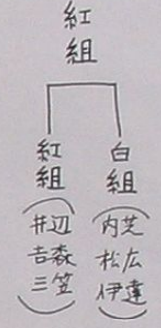
≪詰将棋≫①

松広隆二氏作

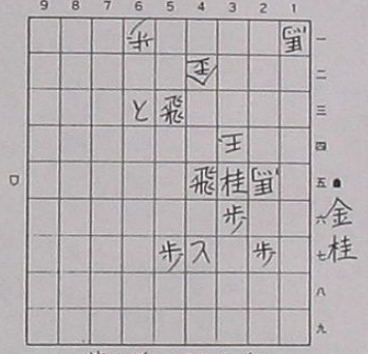
1800点以下の部の優勝カップ戦 ベスト8



紅白連将棋



≪詰将棋≫②



某大学二回生氏作

詰将棋①の答え
9七飛 同金 5五竜 8九玉 9八金打 8八金左 9九玉 9八金引 まで9手

さて、大会結果についてですが、1800点以上の部、いわばA級の部は、本命の上地君が中学三年生二学期末テストの為に欠席しましたので、対抗の松広君が実力通り優勝してしまいました。老かいな指し手を連発して勝ち進んだ方も何人かいらっしゃいましたが、日の出の勢いの松広君には手も足も出なかった様です。松広君おめでとうございました。

それから、1800点以下の部では、井辺君が本命であったのですが意外にもというか、仲さんが底力を出したというか、ベスト8で仲さんに破れ、優勝は最近棋力向上めざましい鈴木さんとなりました。鈴木さんは松広君が獲得した大優勝カップと全く同じ大きさの大優勝カップを取り切ったわけです。鈴木さんおめでとうございました。

なお、以上の中で出て来ませんでしたが、奈良の鎌田さん、松井さん、和歌浦小浜荘の社長の浜田さん、長い間和歌山の将棋会の世話役をして下さっていた浜田静男さん、川永小学校1年生の児玉君等も当日の参加者です。(以上、1987年12月2日記)

連続十回欠席の人は退会とします。(和歌山青棋会規約)